

令和2年度環境審議会企画部会における意見と対応

No.	発言者	意見	対応
1	藤川委員 千賀委員	【佐鳴湖の水質基準について】 天竜川から水を入れられないのか検討して欲しい。また、これまでの取組が分かるようにしたほうが良い。	御意見を踏まえ、次期計画において、施策及び指標設定を検討していきます。
2	荒巻委員	【今後の課題について】 今後の課題に集中豪雨の記載があるが、近年の集中豪雨等の影響を受け、子供たちの環境体験活動の場が少し減ってきている。また、生態系への影響もあるので、今後の課題認識に加えて欲しい。	御意見を踏まえ、次期計画の策定作業を進めていきます。
3	荒巻委員	【芝生化支援について】 「園庭・校庭や公園などに芝生を広げる活動を支援」について、少しメニューを変えていただきたい。子供たちの活動の場は、必ずしも芝生がベストではなく、地面と関わることも大事な環境活動。管理する先生の手間もあるので、芝生以外のメニューも検討していただきたい。	県では、スポーツ振興、良好な景観形成、自然との触れ合い体験の創出等を目的に緑化政策の一環として芝生の普及拡大に取り組んでいます。 芝生整備にあたっては、地元の管理者の学校等から御要望をいただきながら整備を進めております。今後も引き続き関係者の御要望を取り入れながら整備を進めていきます。
4	牧野委員 千賀委員	【指標の評価について】 これまでの県の取組が分かるような指標にならないか。「環境保全活動を実施している県民の割合」が100%というのは、設定すること自体が疑問。他県との比較やもう少し現実的な指標を用いてみてはどうか。	御意見を踏まえ、次期総合計画等との整合性を図りながら、次期計画の指標設定を検討していきます。
5	井上委員	【ビジネスの新たな取組について】 コロナ禍で環境の取組の遅れが懸念される。ビジネススタイルの変革の中で、新しいビジネススタイルの取組等を御検討いただきたい。	御意見を踏まえ、次期計画の策定作業を進めていきます。 また、令和3年度から新たに、金融機関や経済団体、行政で構成する「静岡県SDGs×ESG金融連絡協議会」と連携したESGセミナーや環境ビジネスコンテストを開催し、環境ビジネスやESG金融の機運醸成を図っていく予定です。
6	牧野委員 千賀委員	【情報発信について】 幅広い世代の県民に情報発信するため、県のSNSなどを活用して情報発信できないか。 また比較的新しいキーワードなどについては解説を入れるなど、工夫をして欲しい。	御意見を踏まえ、令和2年度版環境白書について県内図書館、大学への配布に加え、静岡県公式Twitter「わかものがかり」、静岡県公式facebook「静岡時代」において、広報を行いました。 また、新型コロナウイルス感染症拡大を予防するための「新しい生活様式」が浸透する中、環境に配慮したライフスタイルを提案する動画を作成し公開しました。今後も引き続き、SNS等を活用して、幅広い世代への効果的な広報を実施していきます。 また、令和2年度版環境白書についてエシカルやESGなど分かりづらいキーワードについて、注釈をつける修正を行いました。 次期計画策定にあたっては、県民の皆様が聞き馴染みのない想定されるキーワードについては注釈を入れるなど、分かりやすい計画づくりを進めます。